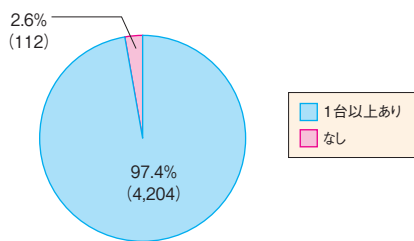


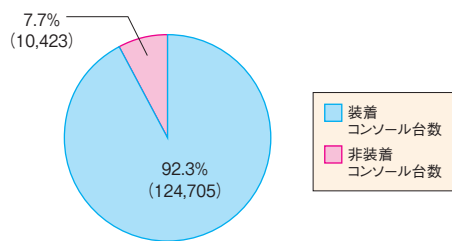
3) 透析液水質管理

(4) エンドトキシン捕捉フィルタ (ETRF) 装着状況 (図表22)

ETRF装着コンソール1台以上施設数



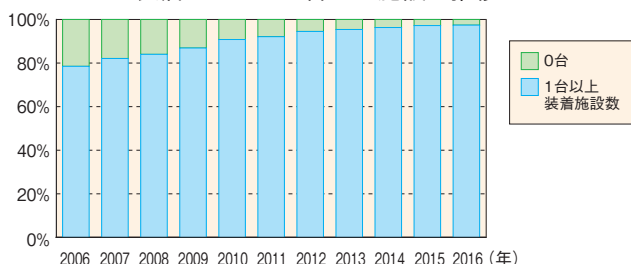
ETRF装着コンソール台数



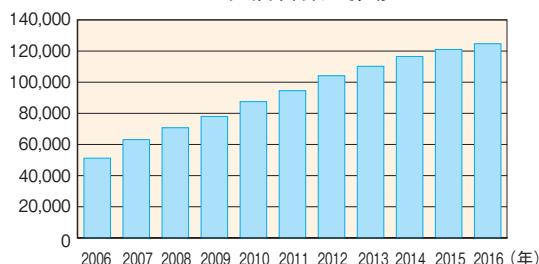
ETRF装着	1台以上あり	なし	合計	記載なし	総計
施設数 (%)	4,204 (97.4)	112 (2.6)	4,316 (100.0)	2	4,318

ETRF装着	装着	非装着	合計	記載なし	総計
コンソール台数 (%)	124,705 (92.3)	10,423 (7.7)	135,128 (100.0)	83	135,211

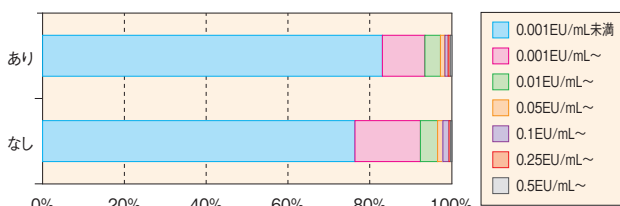
ETRF装着コンソール1台以上施設の推移



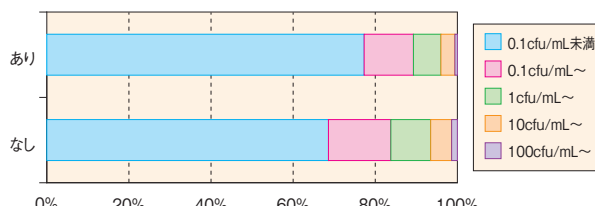
ETRF装着台数の推移



サンプル測定時ETRF装着有無別施設透析液ET濃度



サンプル測定時ETRF装着有無別施設透析液細菌数



サンプル時ETフィルターの有無	0.001 EU/mL未満	0.001~0.01 EU/mL未満	0.01~0.05 EU/mL未満	0.05~0.1 EU/mL未満	0.1~0.25 EU/mL未満	0.25~0.5 EU/mL未満	0.5 EU/mL以上	合計	不明	記載なし	総計
あり (%)	2,992 (83.1)	373 (10.4)	137 (3.8)	38 (1.1)	27 (0.8)	18 (0.5)	15 (0.4)	3,600 (100.0)	41	0	3,641
なし (%)	402 (76.4)	84 (16.0)	22 (4.2)	7 (1.3)	8 (1.5)	2 (0.4)	1 (0.2)	526 (100.0)	45	24	595
合計 (%)	3,394 (82.3)	457 (11.1)	159 (3.9)	45 (1.1)	35 (0.8)	20 (0.5)	16 (0.4)	4,126 (100.0)	86	24	4,236
不明 (%)	12 (66.7)	2 (11.1)	1 (5.6)	1 (5.6)	2 (11.1)	0 (0.0)	0 (0.0)	18 (100.0)	42	5	65
記載なし	0	0	0	0	0	0	0	0	0	17	17
総計 (%)	3,406 (82.2)	459 (11.1)	160 (3.9)	46 (1.1)	37 (0.9)	20 (0.5)	16 (0.4)	4,144 (100.0)	128	46	4,318

サンプル時ETフィルターの有無	0.1 cfu/mL未満	0.1~1 cfu/mL	1~10 cfu/mL	10~100 cfu/mL	100 cfu/mL以上	合計	不明	記載なし	総計
あり (%)	2,711 (77.3)	422 (12.0)	236 (6.7)	118 (3.4)	20 (0.6)	3,507 (100.0)	115	19	3,641
なし (%)	338 (68.6)	75 (15.2)	48 (9.7)	25 (5.1)	7 (1.4)	493 (100.0)	70	32	595
合計 (%)	3,049 (76.2)	497 (12.4)	284 (7.1)	143 (3.6)	27 (0.7)	4,000 (100.0)	185	51	4,236
不明 (%)	8 (53.3)	2 (13.3)	3 (20.0)	1 (6.7)	1 (6.7)	15 (100.0)	47	3	65
記載なし	0	0	0	0	0	0	0	17	17
総計 (%)	3,057 (76.1)	499 (12.4)	287 (7.1)	144 (3.6)	28 (0.7)	4,015 (100.0)	232	71	4,318

解説

施設調査による集計

恒常的に清浄化された透析液を作成するためには、エンドトキシン捕捉フィルタ (endotoxin retentive filter: ETRF) を適切に使用することが非常に重要であり、日本透析医学会は2011年にETRFの管理基準を策定した。

ベッドサイドコンソール1台以上を有する4,318施設のうち、ETRFの装着について4,316施設から回答が得られた。このうち4,204施設 (97.4%) においてETRFは1台以上のベッドサイドコンソールに装着されており、この割合は経年的に増加している。また、4,318施設にある総計135,211台のベッドサイドコンソールのうち、135,128台について回答が得られ、124,705台 (92.3%) にETRFが装着されていた。ETRF装着台数についても同様に経年的に増加傾向を示している。

サンプル採取時のETRF有無別でET濃度および細菌数の分布をみると、「ETRFあり」が「なし」に比べてUPD基準 (ET濃度0.001EU/mL未満、細菌数0.1cfu/mL未満) の占める割合がそれぞれ高かった。一般的にETRF直前の透析液の汚染がきわめて高度でない限り、ETRFを1回通過することにより理論的にはET、細菌数いずれもUPDの基準を達成することが可能である。しかし、ETRFありの場合でも、ET濃度において16.9%、細菌数において22.7%がUPDの基準を満たしていなかった。これらの結果は、ETRFの普及が透析液清浄化に寄与していることを示唆すると同時に、依然としてUPDの達成には、ETRFの取り扱いなどの課題があることも示唆している。